

別表1 令和5年度 拠点間連携共同研究（重点推進研究） 一覧表

課題番号 カテゴリー名 研究課題名	代表者	研究内容
2023-K-1-1-1 重点推進研究 （総括型） 「巨大地震のリスク評価の不確実性に関するパラダイム構築の推進」	加藤尚之 （東大地震研） 松島信一 （京大防災研）	重点推進研究（総括型）では、巨大地震発生時の災害リスク評価の不確実性を明確にすることを目標とします。そのためには、（1）まず各研究分野における知見・モデルの不確実性を定量化し、（2）それらの不確実性を考慮できるリスク評価の枠組みを構築した上で、（3）どの不確実性要因が全体のリスク評価の不確実性に寄与しているかを明らかにすることが必要です。この基本的な評価の枠組みを構築することを目標として、（1）～（3）について検討し、現時点でのリスク評価の不確実性を評価して公に共有するための研究を推進します。
2023-K-1-2-6 重点推進研究 （特定型） （その6） 「地震および豪雨による斜面災害発生個所の事前予測方法の統合」	齊藤隆志 （京大防災研）	地震による土砂災害リスクを評価するうえで、斜面に存在する不安定土塊の位置とその崩壊到達範囲を事前に把握することが重要です。詳細数値地図情報を用い、既往の地震による土砂災害事例から、最初に移動を開始する土塊位置の地形的特徴がわかって来ました。この地形の特徴は、豪雨による土砂災害の発生の初期過程で移動を始める地形的特徴と類似していることもわかってきました。地震では断層運動と地表振動、豪雨では水の集中機構などの土塊移動を開始させる外力の違いが土砂災害発生に及ぼす機構の解明を総合的に行います。
2023-K-1-2-7 重点推進研究 （特定型） （その7） 「巨大地震によるマルチハザードリスク評価手法に関する検討」	松島信一 （京大防災研）	南海トラフ沿いで発生する巨大地震により引き起こされる、強震動、津波、地すべり、地盤変状などのマルチハザードによって、多様な災害が引き起こされることが想定されます。本研究では、これら多様な災害を考慮し、統一的に扱うための課題を洗い出し、巨大地震によるマルチハザードリスク評価を実現する手法に関する検討を行います。

<p>2023-K-1-2-8 重点推進研究 (特定型) (その8) 「巨大地震・津波を 起因とする火災リ スク評価の高度化」</p>	<p>西野智研 (京大防災研)</p>	<p>南海トラフ沿いで発生する巨大地震に伴う地震動や津波は、内陸の都市域や津波の浸水域で火災の同時多発を引き起こし、一部が大規模な延焼火災に発展することによって、深刻な被害につながる可能性があります。地震火災対策・津波火災対策を適切に推進するためには、起こり得る様々な火災シナリオに基づいて、火災による被害・損失の大きさとその頻度（すなわち、火災リスク）を正しく理解し、リスクに基づいて意思決定がなされることが重要です。そこで本研究では、地震火災や津波火災のリスクを評価するための手法に関する研究を行います。具体的には、火災の発生や初期消火、延焼拡大、消防活動、避難行動等のモデルの高度化やモデルの不確実性の評価を行います。また、地震動や津波の確率論的なハザード評価との統合を念頭に、様々な不確実性を考慮した火災リスク評価の枠組みを構築します。</p>
<p>2023-K-1-2-9 重点推進研究 (特定型) (その9) 「地震ハザードに おける地下構造の 影響の定量的評価 の研究」</p>	<p>飯高隆（東大 情報学環/地 震研究所）</p>	<p>日本列島では複数の海洋プレートが沈み込んでいるためプレート境界での巨大地震の発生が懸念されています。そのため巨大地震の地震ハザードの評価は非常に重要な課題です。地震ハザード評価の精度向上においては、震源域による影響、波動の伝播による影響、観測点近傍の構造による影響等、さまざまな要因が考えられ、それぞれの要因の影響を明らかにする必要があります。そのためこの課題では、地盤構造の推定や距離減衰式や波動伝播のシミュレーションを用いた研究等をおこない、それら地下構造の影響の定量的評価の研究を進めます。</p>